

「はくしんどう時間」は博進堂の「今」をお届けするニューズレターです。



- ・博進堂創業百周年記念事業
- ・100年企業のコラボインタビュー
- ・写真集『O:SKALL MATES』
- ・第38回一人一研究発表会
- ・新潟日報カルチャースクール
- ・新潟お湯巡り旅
- ・編集後記

vol.7 特大号

撮影：畑中 舞

建設業×印刷業

100年企業の コラボインタビュー

創業133年の建設会社である小野組様よりお声がけいただき、昨年9月に4日間のコラボインタビューを開催しました。小野組様と博進堂の共通点は、100年以上続く企業であること、ものづくり企業であること、そして人材教育に熱心な企業であることがあげられます。

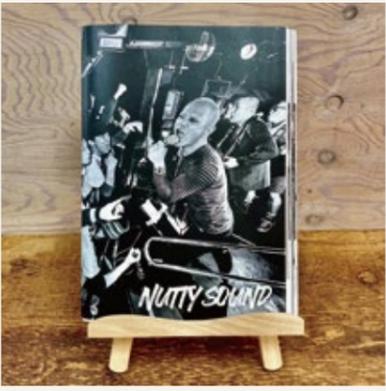
インタビューを異業種企業と連携することで、他業種に関心のある学生や志望業界・業種が絞り切れない学生などにも自社への認知を広げられるメリットがあります。知る限りでは新潟初の試みではなかったかと思えます。参加学生からは「100年続く企業にはしっかりとした理念がある」「生きる上で大切な考え方を

知れた」「思いが込められたこだわりのある卒業アルバムとはこういうものなのだと感動した」「働き方改革に取り組んでいてとてもいい会社だと思った」などの感想が聞かれました。建設業や印刷業については、いわゆる「ブラック」というイメージが根強くあるようでしたが、業界のマイナスイメージをも払しょくできました。最終日には東区役所職員の皆様、新潟大学の先生、東区の企業数社にご見学にお越しいただき、産官学連携の可能性も見えてきました。何より小野組様より「博進堂から多くのことを学べた」と喜びいただけたことが大変有難く嬉しいことでした。企業のイノベーションは自社単独では限界があり、組織の枠組みを越えた共創によって創出されることを実感しました。

経営戦略本部 堅田里栄



写真集を通じて アーティストを応援



NUTTY SOUND OI-SKALL MATES
by YUTA ASAHINA
A4 84P 新聞折り製本 限定250部 3,500円

私たちは、展覧会図録や写真集等の制作の際、作家や写真家の方々と関わる機会が多くあります。プロ・アマチュア問わず、作品に込められた熱い想いを、最も良い形で表現するためにはどのような仕様にすればよいか、共に探っていく過程はとても緊張感がありワクワクするものです。

昨年、結成25周年を迎えたバンド O:SKALL MATESのライブ中の様子を中心にまとめた写真集を担当しました。撮影は、同バンドの専属カメラマンである朝比奈雄太さん。本社工場へお越しください、コロナ禍以前の熱いライブや国内外のツアーの話をお聞きしながら写真を見せていただきました。一枚一枚から発せられる熱量の高さ、観客の渦の中に飛び込んでしまったかのような臨場感がすごい！この時感じ

営業部 小笠原麗



写真集の購入は
コチラ！

新潟 お湯巡り旅

雪国新潟の心と身体を癒してくれるもの…ということで今回は銭湯マニアのたくろう（営業部）& お湯好きわか（編集部）がお届けするお湯巡り特集です！一度は来なせや〜！



さか井湯 サウナ、水風呂、薬湯がレトロかわいい空間に濃縮。銭湯好きも大満足☆ (たくろう)



多宝温泉だいの湯 熱め&硫黄好き必見！！47℃の50畳大庭園露天風呂で疲れが吹っ飛びます。(わか)



みつじ健康の湯 ほっとびあ 炭酸風呂→岩盤浴→漫画の黄金ルート。一日中居れます。(わか)

編集後記

編集メンバーのわかです。私事ですがご縁結ばれ博進堂を卒業することになりました。発行当初から携われたことが私の大切な宝です。ありがとうございました！今後とも「はくしんどう時間」をよろしく願いいたします！

今回のテーマは「2022年挑戦したいこと」！

春に生まれるひな鳥を飼ってみたい。
でも、いのちを預かる不安あり…。 (りりあん)

ホテルと出会う時期に、思い切っちゃちょっとだけ高級な旅館にいつちやおうかな。 (うちだ)

いつもゴキゲン♪でいたい！つまりは自分自身のごきげん取り。今年もなかよくやっついこうね。 (れい)

外出する機会も減りお腹周りにお肉がついた予感…来年こそは健康的に引き締めたい！ (まいまい)

ずばりスカイダイビング！！そのためにちよこつと体力づくりも始めます…！ (わか)



みなさま
からのお声
大募集！



はくしんどう時間 vol.7 特大号
発行：株式会社 博進堂
TEL: 025-274-7755
発行月：2022年1月
題字：小笠原麗 (アルバム営業)

動き出すことで見える世界 新潟日報カルチャースクール

2021年4月より、発行部数50万部の新聞社新潟日報社主催、新潟日報カルチャースクール(以下、日報CS)で、博進堂社員が講師をつとめる「ミニフोटobook講座」とはじめての本づくりのための編集ワークショップを開催しています。講座は3ヶ月で完結する形式で、期間内に5〜6回開催されます。私たちは常々、お客様が「印刷物をつくりたい」と思った時に、印刷だけではなくその企画の段階からお手伝いしたいと考えています。そのためには、私たちがどんな想いで日々の仕事と向き合っているのか、広く知っていただく必要があります。日報CSでは芸術、音楽などを中心に多岐にわたる講座が通年開かれており、その講座数は延べ500を超えます。ここでなら博進堂が得意とする写真、編

集印刷、製本の技術が活かされ、また私たちの日々の仕事に触れていただけたら良い機会になると思います。短い期間内に私たちの想いや考え、技術をどのように伝えるか、議論と工夫を重ね、準備をして講座に臨みます。幸い多くの方に受講していただいています。最初はなかなか方向性が定まらず悩んでしまったり受講者も、回を重ねるうちにそれぞれの光を見出します。私たちの想像を超えた展開になることもしばしばです。受講者のみなさんが悩んだ末に殻を破って飛び出す瞬間が見たくて、私たちは講座を続けています。



▶「はじめての本づくりのための編集ワークショップの様子」

第38回 いちにんいちけんきゅう 一人一研究発表会



博進堂には一人一研究発表会、通称「一研」という文化があります。自分の仕事を「研究」として、全社員の前で発表するという取り組みで、昨年で38回目を数えました。ひと口に研究と言っても難しいものではないです。新しく導入した機械やシステムについての試行錯誤した取り組み内容や、これまで長年続けてきた作業についての気づき、売り上げアップにつながったこと、経費削減につながったこと…。自分の仕事にまつわることを考え、まとめ、発表するのが一研です。

一研は無意識に行っている日々の仕事に對し、内省するきっかけになります。私自身も以前発表者として参加した際は、考えを体系的に整理し、発表としてアウトプットする過程で、更に新たな気づきを得たり、次への課題を見つけたりすることができました。また、内勤のスタッフや印刷・製本のオペレーターにとっては、大勢の前で発表するということが、自身が貴重な成長・学びの機会となり、「仕事を通じて人間の成長を支援する」という当社の企業理念がこの大会にも息づいているのだと思います。そのような一研ですが、近年は発表者の減少や固定化といった課題も抱えています。脈々と受け継がれてきたこの文化を、未来へと受け継ぎ、さらに発展させていくために、経営委員会のトップとして何ができるのかを引き続き、考えていきたいと思っています。

経営委員会委員長 穴沢基



博進堂 創業百周年記念事業

2021年12月の創業百周年を記念して、5つのプロジェクトを実施。それぞれのリーダーから実施内容についてご紹介いたします。

二度とない百周年 全社員が関わる記念事業に

百周年記念事業を実施するにあたり2つの目的を定めました。1つ目は「これまで百周年を支えてくださったお客様、お取引先様、社員の皆様に感謝を伝えること」、そして2つ目は「さらに百年続く未来を描く」です。今在籍している社員にとって二度とない百周年の節目であるため、できるだけ多くの社員が関わられるよう5つのプロジェクトを各部署で担当してもらいました。その甲斐あって、社員一人ひとりが博進堂という会社の歴史を改めて見つめる良い機会となりました。

百年という歳月はあまりにも永く、いったいどれほど多くの方々からのお支えがあったらどうかと感謝の念に堪えません。心より感謝申し上げます。

- Project1 オープンアートファクトリー
- Project2 記念誌『百寿』
- Project3 ユニフォーム
- Project4 カウントダウン企画
- Project5 社員参加型のビジョン動画

Project1 オープンアートファクトリー

営業部 牧野正広

2021年9月27日より10月29日までの約1カ月間、普段は一般開放することのない工場設備や展示物を「見学いただくオープンアートファクトリー」を開催しました。お客様、取引業者様、先輩方に育てていただいた博進堂の百年。その歴史と様々な取り組みを展示することで、皆様へ感謝の意を表すと共にこれからも「支援賜りたい。そして社員は、これまでの道のりを見直し、これからの博進堂を盛り上げる機運としたい」という趣旨で企画しました。

過去2018年、2019年は1日限定で開催していましたが、2020年はコロナ禍により中止。今回は皆様に安心して「見学いただけるよう直前まで各種調整を行い、過去2回とは違うスタイルでの開催としました。

各種アート作品で溢れる工場に！

展示物として外部からは、「産業のまち」新潟市東区の魅力を伝える写真パネル、障がい者アート「まちごと美術館」様の作品、株式会社小野組様の「小野組フォトプロジェクト」、廃工場を利用した「キガタヤプロ



「無垢を活かした木製雑貨」、ガラス工芸作家久畑昌弘様より出展いただきました。その他に、弊社グラフィックデザイナーが地域貢献で関わる地元西蒲区の郷土玩具「鯛車」、社員アート、博進堂百年の歩みと各種学校アルバムを展示しました。工場見学では各部署から選ばれた社員が案内係となり、オフセット印刷とデジタル印刷機の仕組みや製本方式等をご紹介しました。一般の見学者の方からは「色々な工程でたくさんの方が作り上げていくものだなということがわかりました」という感想をいただきました。学校アルバムの変化や工程の多さ、機械の大きさを実感していただくことが出来ました。

100名を超えるご来場に感謝！

おかげさまで期間中の来場者は平日のみの開催にも関わらず100名を超えました。新潟市東区の小さな会社が発信したアートの便りに、少しずつでも共感の輪が広がっていくことと、学校アルバムなどの社会的価値の向上につながるオープンアートファクトリーとなりました。ご多用の中ご来場いただいた皆様、開催にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



Project2 記念誌『百寿』

営業部 星野景子

そもそも博進堂ってなんだろう？「ユニークな会社だよな」ってよく言われます。そう、目に見える社屋や設備では説明できない、この激しく変わりゆく社会にあって百年間、我社を生かしてきたものがあるのでしょう。それに近づきたくて、全身全霊で編集に臨みました。



・サイズ T284×Y215
・並製本
・本文カラー 64 ページ



コンセプトは「99年に感謝し今年を寿ぎ 未来に何を残すのか」。テーマは「博進堂を伝える」。ぜひすべてのコンテンツを読み感じていただきたい。私たちがお客様を思うように、お客様から大切に思っているに、おかげさまで日々仕事に育てていただいていること。先輩から後輩へ幾度となく「ココロのバトン」が手渡されていること。これが「博進堂」を織り成していること。

繁忙期の待機中に丹念に企画を練り、その後は全社員アンケートを筆頭にみなさんの「ココロ」がエネルギーになって作られています。そして制作にあたっては原稿作成から撮影・デザイン・レイアウト、出稿後の超特急仕上げ…本当にありがとうございました。

この記念誌で我社の姿と、育まれてきた愛のようなイズムが伝わり、心にぼわっと何かが灯ったら、サイコーにうれしいです。

Project5 社員参加型のビジョン動画

制作部 野口基幸

「百周年からその未来へ」をコンセプトに友人、家族、会社での出来事など、様々な日常シーンの1コマからアルバムがつくられていく様子をイメージしながら動画を組み立てました。

冒頭では実際に働いている社員の日常風景をありのままに撮影したもので、動画内で流れるギターやBGMは社員が弾いたオリジナル音源が使われているなど社員参加型で「博進堂」らしい温かみのある作品に仕上がっています。



動画公開中！



Project3 ユニフォーム

生産部 星田芳広

テーマは「全社員の気持ち」が1つになるようなユニフォーム。博進堂のシンボルマークカラーであるシアン、マゼンタ、イエローを取り入れる事とし、数社のカタログから厳選しました。シンプルで誰もが着やすいイメージとなるよう、タイポグラフィを経営戦略本部の岡崎が担当しました。メーカーのワークマン様には通気性やプリントの適合性等でアドバイスをいただき、何度も打ち合わせを重ね決定しました。イベント時にはもちろん、普段から気軽に着用できるユニフォームとして自由に活用してもらっています。

Project4 カウントダウン企画

制作部 牛藤司



「百周年に向け社内外の機運を醸成するPR活動」がカウントダウン企画の目的でした。一昨年の12月からスタートし、昨年の創業記念日の12月1日まで約1年間に渡り実施しました。Facebookの投稿と会社エンタランスにコーナーを設けて発信。コンセプトとして「百年の歴史」受け継がれてきた教え「人物紹介」などが挙げられ、スケジュール作成とデータの作り込みを担当しました。掲載内容は「歴代社長編」「歴史編」「藤坂先生のお言葉編」。Facebookでの評価は、投稿を見たユーザー数と共感数から判断すれば、初回の反応はかなりの大きさ、魅力的な内容を発信出来たと思っております。博進堂の歴史に触れ、先輩方の挑戦する姿勢には深い感銘を受けました。

御礼

代表取締役社長 清水伸



昨年は全社を挙げて百周年記念事業に取り組みました。コロナ禍ということもあり記念式典は開催できませんでしたが、経営ビジョンづくり、百周年記念誌、ユニフォーム、オープンアートファクトリー開催、各種プリントメディアを作成いたしました。その間、皆様から温かい励ましのお言葉や、お花、お祝い、ご祝辞を賜りました。この紙面をお借りしまして心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。